

平成29年度 学生市民等協働プログラム 概要

部局名 教育学部

区 分	内 容
事業名	タイ・パンガー県におけるインド洋大津波の被害と復興の実態から学ぶ防減災
指導教員	① 教育学部 教授 小岩直人 ② 教育学部 准教授 勝川健三
学生市民等の所属及び人員 ※基金以外の者を含む	教育学部 3名 教育学研究科 修士 2名 弘前市役所 経営戦略部防災安全課職員 1名
渡航先 (渡航期間)	タイ (平成29年10月24日～平成29年11月1日)
実施 スケジュール	平成29年10月1日～ 事前調査 平成29年10月24日 25日 タイ国渡航 " 10月26日 カオラックにおける津波被害, 復興に関する調査・研修 " 10月27日 カオラックにおける観光地の形成と災害に関する調査・研修 " 10月28日 ナムケムにおける津波被害と復旧, 災害後のに関する研修 " 10月29日 ナムケムにおける現在の災害対策に関する調査・研修 " 10月30日 プーケット島西岸における津波被害, 復興に関する調査・研修 " 10月31日 タイ気象局訪問 (災害対策の聞き取り) " 11月 1日 帰国 " 11月 5日～まとめと弘前市の防災に関する検討
プログラムの概要	<p>1. 目的: 本事業は, 過去に生じた大きな災害について, 現地においてその要因, 復興, 災害後の問題点などを学ぶことにより, 教師として教員としての資質を高め, その成果を用いて弘前の防災対策・防災教育に貢献することを目的とする。</p> <p>2. 事業概要: 本事業は, 2004年インド洋大津波で壊滅的な被害を受けたタイ南西部の沿岸地域において, その被害の実態, その後の復興プロセス, 復興後に生じている問題点などを共同で研修・調査を行うものである。</p> <p>3. 教育目標: 教員を目指す学生・院生が, グローバル化に対応した教員としての資質の向上, 防災教育実践のための基礎知識の獲得をすることを目標とする。</p> <p>4. 期待される成果等: 地理学を専攻し教師を目指す院生・学生にとって, 熱帯モンスーン地域の人々の生活を体感し, そこで生じた災害の現状を知ることにより, 多様な風土, 民族等の理解, 自然と人間のつながりをグローバルな視点で効果的に学ぶことができる。</p> <p>5. 当事業が弘前市や弘前市関連地域にあてる効果・成果等: 大きな自然災害を被った地域での研修で得た, 災害の現状, その後の復興, 災害後に生じうる問題点などに関する知見・知識をもとに, 災害リスクの高い弘前市における防災教育・防災対策へ還元することが可能となる。</p>

プログラムの様子		
		
今後の展望		
	<p>【写真 5：津波後に進行した海岸侵食により露出したりゾートホテルの基礎】</p> <p>今回の研修では、2004年の災害以降に整備された警報システムにより、災害（津波）発生が予想される際には、その到達を知らせることが可能となったものの、すべての住民に災害の危険性を伝えることには限界があることを強く感じた。また、現地住民への聞き取りから、避難時に生き延びるための行動は、知識などの現地住民の能力によるところが大きいと判断された。さらに、災害後の予期せぬ二次的、三次的な新たな現象が起きていることから、災害に関する知識の普及や防災意識向上を目的とする防災教育が広く一般的に行われる必要があるといえるであろう。現在、弘前市では小・中学校への「防災教育」、地域住民などに対する「出前講座」などにおいて防災に関する知識の啓発、さらには「防災マイスター育成講座」などを開講して地域防災力の向上を進めている。その際には、災害が起こりうる当該地域の地形などの自然条件などにも着目し災害に対する脆弱性を把握し、また、過去の災害による痕跡や情報を用いて、地域の防滅災を考えることが災害への対応能力の高い人材を育成することへつなげられると思われる。</p>	